

122

1532

午前十一時乃至午後一時 午後二時乃至  
 午後四時) 制限あり為緊急電  
 報ニ依ル方早キ場合ハ電報セサルコト  
 トス(レ)

0 2339 670

3

館長符號電信

1532

大 次官

亞米利加局長

(總 36914)

電信課長

昭和十六年十一月廿七日前後

月廿七日前後 本省著

(暗) (機)

極秘 館長符號

東 郷 外務大臣

野村大使

第一二八二號 (至急)

貴電第一三六號之旨

早速実行ス(オ)ニ日米間電話聯絡

時間(東京時間)午前七時乃至十時及

0 2338 669

2

館長符號電信

790

大臣  
次官  
栗原重良

(總 36414)

電信課長

昭和十六年十一月廿七日前後

月廿七日前後 本省著 (暗) (機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣 野村大使

第一二八一號 (至急)

貴院第八三六號之函

早速実行ス(本日未開電報聯絡)

時向(東京時向午前七時乃至十時)

館長符號電信

IMT 98 225

790

36414

午前十一時乃至午後一時 午後二時乃至三時

午後四時(二割限) 為 緊急 仰電

報ニ依ル方早ニ場合ハ電報セサルント

トス(レ) 云々

( )

館長符號電信

IMT 98 226

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター

724

1532

南方ニ於テハ荷ニニ申シタルトナク我方  
 ノ主張ハ先方ニ徹底シテ居リ  
 尚貴院後段ニ向テハ南方トシテ  
 取ニ充分利用政ニ就得ニ如クメテ居ルハ次  
 第下ルカ日漸進是等ノニ々約次下ハル  
 長官ノ主張ヲ總テ護スルノ立場ニ在リ

0 2341 672

館長符號電信

723

1532

大臣 次官

要案部加局  
第

(總 36415)

電信課長

昭和十七年十一月廿七日

月廿七日前後 本 省 著 (暗) (機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村 浩

第一八三號 (大至急)

貴院第一八三號ニ付

貴院冒頭佛所全部撤兵ノ如キハ

米國新記者ノ臆測ニ違キサルニシ

館長符號電信

0 2340 671

6

726

1532  
大臣  
次官  
葉門和  
本  
(總 36416)

電信課長 齋藤

昭和十七年十一月廿五日 午後 華府 發  
十一月廿七日 前後 本省 著 (機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村大使

第一八四號

往東京 一七八號ニ関シ

今朝更ニ事情ヲシテ「ハレニタイシ」ヲ往訪セシメ  
今日ノ豫定時ヨリ後サレタル「ハレニタイシ」

館長符號 電信

0 2343 674

9

725

1532

ハワアル事情ナリ

館長符號 電信

0 2342 673

8

728

1532

大臣  
次官

栗利加島長

1000/117  
(總36467)

電信課長

昭和十七年十一月廿七日 華府發

十一月廿七日前後本省著

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村大使

第一一八七號

本使東郷大使同伴本廿六日午後四時四十五分ハ此ト長友ト會談ノ豫定ナリ(了)

0 2345 676

11

727

1532

中ニシテ該ニト~~も~~<sup>他</sup>マナリ願ヒル暇ナキ實状ニテ  
會見豫定結ルハ今者確定致シ兼ネアル  
次方ナリト述~~ス~~ムガ更ニ會ハル長友ト連絡ノ  
後同取寄ノ由答~~ス~~ルモ大體本日中ニハ  
會見ノ運ニ至~~ル~~ナ~~リ~~ト仰~~ス~~ルマシ~~テ~~取~~リ~~ナ~~リ~~爲~~ス~~  
會(了)

0 2344 675

19

REEL No. A-0291

1532

36540  
(總 36528)

大 官

栗利部長

電信課長 龜田

昭和十五年十一月廿六日 午後 華府 發

十一月廿七日 午後 本省 著

(機)

極 祕 館長符號

野村大使

東郷 外務大臣

第一八九号

廿六日午四時四十五分ヨリ三時三十分本使及

事栖大使「ハル」長友ト合談ス

ハハヨリ教わる本月二十日日本側

館長符號電信

U 2346 677

1532

730

提出ノ暫定協定草案(我方之草案)ニ付米子政  
府に於て各方面ヨリ検討スルト共ニ関係諸  
事ト慎重協議セルモ遺憾ナラセニ同意出  
来ス結局米側が日ニ上り草案ト日本側九月  
二十五日草案ノ程ノ際ヲ調整セルに記要事項  
ノ草案ヲ一紙( a plan )ニシテ (Kenta  
Five and without - commitment) 一頁書

U 2347 678

732

1532

対スル協定取極

(一) 支那及全佛印ヨリノ日本軍ノ全面撤兵

(二) 日米両子ニ於テ支那ニ於ケル特政概以外ノ政權ヲ支持セザル確約

(三) 支那ニ於ケル治外法権及租界ノ撤廃

0 2348 \* 689

731

1532

ス) 提出スルノ案ヲ得ザルニ至レリトテたノ二案ヲ提出セリ

甲、所謂四原則ノ承認ヲホメタルモノ

乙、(一) 日米英ソ蘭支泰子ノ相互不の侵奪的締結

(二) 日米英蘭支泰子ノ佛印不の侵

並仏印ニ於ケル経済上ノ均等待遇ニ

0 2348 \* 679



734

1532

ヘキエトヲおス (三子協定四月抜キ案)  
 右ニ對シ我々方ヨリ全英従来ヨリノ指令ニ悖  
 リ東洋ニ取次ノアラスヲ考慮セザンヲ得ヌト  
 テ硬ク強クヲおスルカハハハ到底讓ルル氣  
 色ナシ  
 米例ニテ斯ル強硬案ヲ提テスルニ至ルハ英人  
 甘藷支ノ策勸ニ依ル外按符行る停止ノ我々

0 2350 682

733

1532

(六) 日英通商待遇ヲ基礎トスル日米通商  
 通商条約締結  
 (七) 日米相互疎結令解除  
 (八) 日米通商為替白安定  
 (九) 日米両子カオニ子トノ互ニ締結セル如  
 何人協定モ本件協定及大(平洋)平  
 和維持ノ目的ニ及スルモノト解セラレサ

0 2349 681



1532

要取ト教目来我子要人ノ英米并倒著ノ説  
我對泰子々防全面的委任要取説者ニ對  
御善サレ来例ノ妥協派カ強硬派ニ壓倒セウ  
レタルカト推察ス(了)

0 2351 683

735

3115

次官

大臣

(總 3628)

電信課長

昭和十七年十一月廿六日午後華府發

十一月廿七日午後本省著

(機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村大使

第一八九號

廿六日午向四時四十五分ヨリ五時三十分る本使及

事栖大使「ハル」長吉ト會談ス

ハルヨリ教取る本月二十日日本側

館長符號印

IMT 567

189

19

提出ノ暫定協定案(我方之案)ニ付米子取  
 付ニ付テ各方面ヨリ検討スルト共ニ関係諸  
 スト慎重協議セルモ遺憾ナラセニ同意出  
 来ス結局米側亦日ニ上ル案ト日本側亦日  
 ニ下ル案ノ程ノ隔ヲ調節セルヲ以テ両側  
 ノ折衷ヲ一策( a plan )トシテ (tentative  
 Five and without - commitment) 上層書

ス) 提出スルノ案ヲ得ザルニ至レリトテ左ノ二案  
 ヲ提出セリ

甲、所謂田原別ノ承認ヲホメタルモノ

乙、(一) 日米英ソ蘭支泰子ノ相互不  
 侵条約締結

(二) 日米英蘭支泰子ノ佛印不侵  
 並仏印ニ在ルン経済上ノ均等待遇ニ

対スル協定取極

(三) 支那及全佛印ヨリノ日本軍ノ全面撤兵

(四) 日米両子ニ於テ支那ニ於ケル特政概以外ノ政權ヲ支持セザン確約

(五) 支那ニ於ケル治外法権及租界ノ撤廃



(六) 日米間ニ於テ特種ノ基礎トスル日米互恵ノ通商条約締結

(七) 日米相互疎結令解除

(八) 丹、トルノ為替安定

(九) 日米両子カオミ子トノ為ニ締結セル如

クハ協定モ本件協定及たノ平洋ノ平和維持ノ目的ニ及スルモノト解セシザル

3115

ヘキントヲおス (三七協定四月廿七条)  
 右ニ対シテ方ヨリ全ク然来ヨリノ指令ニ依  
 リ東条ニ取次ノアラスヲ考慮セザンヲ得ハスト  
 テ硬石ヲおスニカハルハ到底腹心気  
 色ナシ  
 米例ニテ斯ル強硬ヲ提テスルニ至ルハ美  
 甘園文ノ策動ニ依ル外按察行る停止ノ我方

印兵務部電信

IMT 567 194

24-1

3115

要約ト教員米我子要人ノ英米并倒テ説  
 我對泰子々防全面的委任要約説者ニ對  
 仰善サレ米例妥協派カ強硬派ニ壓倒セウ  
 レタルカト推察ス(3)

IMT 567 195

24-2

REEL No. A-0291

外務省  
密

館長符號

昭和十六年十一月二十六日在米野村大使宛  
東郷外務大臣發電報寫字ハミナリ

情勢ハ逐日急迫シツツアル處電報ハ長時間ヲ要スルヲ以テ今後ハ  
必要ニ應ジ會談等ノ模様ハ簡單ナルモノニ限り隨時電話ヲ以テ山  
本亞米利加局長ニ御通報相成度其ノ際使用スヘキ隱語左ノ通

- 三國條約問題 ニューヨーク
- 無差別待遇問題 シカゴ
- 支那問題 サンフランシスコ
- 總理 伊藤君
- 外務大臣 伊達君

- 陸軍 徳川君
  - 海軍 前田君
  - 日米交渉 縁談
  - 大統領 君子サン
  - ハル 梅子サン
  - 國內情勢 商賣
  - 讓歩スル 山ヲ賣ル
  - 讓歩セス 山ハ賣レヌ
  - 形勢急轉スル 子供カ生レル
- 尙爲念本省以外ノ電話番號ハ山本局長(世田ヶ谷四六一七)加瀬

736

大臣 1532

(分類)

3116

電 信 案	撤兵ノ宿願凍結解除トラ南聯セシノ兵ニ模様ノ処往	升南通信ハ米側ノ要求トシテ我方ハ仏印部隊全面的	西大使ハ	電送第 44738 號	主管 栗利加第
				昭和十六年十一月二十六日午後四時二十分發	主任 栗利加第第一課長
外 務 省	第八三〇號	大子急	野村大使	件名宛	在米
				記録件名	東郷大臣

電信課長

發電係

昭和十六年十一月二十一日起草

(日本標準規格B5)

0 2352 684

28

IMT 568

131

27

課長 (四谷四七九三) 大臣官邸 (銀座三六一四) 次官官邸 (銀座一〇二二) ナリ



738

1532

電信案

度

充分即利用相成り直接間接ニ米側ヲ説得アリ

ナキ儀乍ラ貴大使御眠銀心ノ有力莫米人等ヲモ

主張ノ貫徹ニ最善ノ努力ヲ盡シテ度ノ尚申ス迄モ

貴大使ニ於テハ至急重テテ米側ト接觸セラレ右我方

高

(日本標準規格B6)

0 2354 \* 686

30

739

1532

電信案

度

電ヲ七九八号申進、通り十八日貴方ニ於テ提出セラレ

タル試案ニテハ到底時局ヲ收拾スルニ足ラス我方最良案

ノ趣旨ハ乙案全部(乙案ヨリ三國系約及通商無差別)

即チ六及七項ヲ除外シタルモノニ往電チ八一六号申進

ノ如ク米側十日提案乙号ノ日支和平周旋ヲ含ムノ

成立ヲ期待スルモノニテ之カ貫徹ハ絶対ニ必要ニスル

次チナリ、就テハ期日切迫シ餘日餘許モナキニ鑑ミ

外務省

(日本標準規格B6)

0 2353 \* 685

29

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター



740

1532

電信案

外交交渉ニ応シテ早日ニ我方ニ於テハ石油輸入ニ付米  
 國ヨリ八年四百萬也(米國ヨリ昭和十三、四、五年度ノ平均  
 輸入量)其ノ以テ航空揮発油ヲ含メ資産凍結  
 実施前ノ実績(即月約三三萬三千也)又蘭印ヨリ從前  
 交渉ニ於テ大体意見ノ種リタル数量(蘭側八年百八千也)供給  
 全意セリ)ヲ基礎トシテ二百萬也ヲ希望スル旨御申シ相成致  
 一話合成立ノ上ハ貴大使ト國務長官ト間ノ文書交換

(日本標準規格B5)

0 2356 688

32

939

1532

(分類)

電信課長

主任

昭和十六年十一月廿二日起草

電送第 44750 號

昭和十六年十一月廿六日午後六時一分發

件名 宛

在米 野村大使

東郷大臣

第一八三三號

館長符号

往電ヲ七九八號ニ関シ

重要字結ノ際ハカニ取及カ三取ニ関聯シ早速物資  
 確保ノ必要アリ也 帝國カ焦眉ノ急トスルハ石油ヲ獲得スルニ依

電信案

外務省

(日本標準規格B5)

0 2355 687

31

381



1532

前同ハ十一月十八日迄ノ経緯ニ付申上ケマシタカ其後ノ経緯ニ付  
 申上ケマス

野村、來栖兩大使ハ二十日「ハル」國務長官ヲ往訪致シマシテ我  
 方新提案ヲ提出シ急遽妥結ノ爲メノ提案スルモノナル旨ヲ説明致  
 シマシタ處「ハル」長官ハ差シタル意見ヲ述ヘヌ同案中米國カ日  
 支和平ノ努力ヲ妨クルカ知キ行動ヲ差控フトノ一項ニハ大ナル難  
 色ヲ示シ日本カ三國條約ノ點ヲ明カニシ和平政策ヲ採ル旨備言ス  
 ルニ非サレハ接蔣行爲ヲ打切ルコト困難ナリ大統領ノ日支間和平  
 ノ紹介者タラントノ提言モ日本ニヨル平和政策ノ採用ヲ前提トス  
 ル旨答ヘ新提案ニ付テハ研究ノ上更ニ相談スヘント約シタ趣テア

昭和十六年十一月二十六日

0 2039 368

34

外務省

741

1532

電信案

外務省

等ノ方法ニ依リ右ヲ確約セシムルコト致シ度ニ  
 高右收買ハ交渉上標準タルヘキ大約ノ数字ヲ表シ  
 右方トシテ今既  
 未決成事ニ通商恢復ニ伴ヒ漸次増加ヲ希望スル  
 次第ニ付右中旨ノ上抑折衝相成度ニ

日本標準規格B6

0 2357 689

33

383

1532

協議ヲ遂ケマシタカ之等大公使ハ本國政府ニ稟請シ月曜日(二十四日)迄ニ米國政府ニ對シ回答シ得ヘキ旨述ヘタ由テアリマス  
同日ノ野村、來栖兩大使及「ハル」長官會談ニ於キマシテ兩大使ヨリ當方提案ニ對スル米國自身ノ回答ヲ求メマシタル處同長官ハ之ニ對シ明答ヲ避ケ英、蘭、濠洲等ノ欲スル處ハ南太平洋方面ノ緊迫セル現状ヲ急速ニ轉換スルコトニ在リ南部佛印駐屯ノ日本軍隊ヲ北部ニ移駐スル程度ニテハ充分ナラス又通商ノ常態復歸モ漸進ヲ可トスヘキモ右ハ日本ノ平和的意圖明カトナル時ハ數日ニシテ急轉換ヲ見ルニ至ルヘシト述ヘ米側ノ援蔣行爲打切ニ關シテハ斯ルコトハ米國カ公平ナル紹介者タルヲ得サルコトトナリ承服シ難キ旨述ヘタ趣テアリマス

外務省

U 2041 370

36

382

1532

リマス  
翌二十一日來栖大使「ハル」長官ト私的會談ヲ行ヒオシタ際「ハル」長官ハ日米兩國カ各々東亞及西半球ニ於テ平和的手段ニ依リ指導的立場ニ立ツニ異議ナク又兩國カ親善裡ニ太平洋協定ヲ續ビ三國條約モ右協定ノ實施ヲ妨ケサルコトヲ日本側ニ於テ闡明セラレンコトヲ望ム旨述ヘタ趣テアリマス  
二十二日「ハル」國務長官ハ野村、來栖兩大使トノ會談ニ先立チ英、蘭及濠洲各國大公使ト日米了解案中各國ニ關係アル部分ニ付

外務省

U 2040 369

35

385

1532

リノ物資獲得ノ保障ニ付テモ米國トノ間ニ諒解成立セサル限り安  
結ハ不可能ナルコトヲ明瞭ニ致シテ置キマシタ

外務

U 2043 372

38

384

1532

米國ノ援蔣行爲ノ打切ニ關シマシテハ二十二日野村大使ニ對シ帝  
國ト致シマシテハ新提案ニヨル協定成立ト同時ニ米國ノ橋渡シニ  
ヨリ去ル十二日米國ヨリ申出ノ趣旨ニヨリ支那ヲシテ日本ニ對シ  
友誼ヲ披瀝セシメ以テ日支和平直接交渉ヲ開始セントスルモノナ  
ルヲ以テ米國側ニ於テ之カ支障トナルカ如キ行爲ハ之ヲ停止スル  
コト當然ナルヘキ旨ヲ米國側ニ申入レル様訓令致シマシタ  
尙東京ニ於キマシテハ本大臣ハ二十三日在京米國大使ノ來訪ヲ求  
メ米國初英蘭濠洲諸國ニ於テハ南部佛印駐屯日本軍ヲ北部ニ移駐  
スルノミニテハ不満足トナシ居ルカ如キモ我方トシテハ右ハ難キ  
ヲ忍ンテ敢テセル提案ナルコト及我方ノ期待スル所ハ單ニ凍結令  
實施前ノ狀態復歸ノミニテハ不充分ニテ援蔣行爲ノ停止及蘭印ヨ

外務省

U 2042 371

37

754

1532

ニ、考方ヨリ「オラール」中六日廿一、本葉上  
 ルヲ得甘んニ至レリ  
 係諸子トモ揚言セルモ申込憾なくニ体案派ス  
 陰ノニ付テハ五日百ニ百リ案派研究シ且其  
 一、廿日考方提出ノ提案(乙案)他六及セテ  
 ルカ其ノ要領ヲ述  
 之ニセルヲ以テ一読ノ上種々意向ヲ答ヲ示ス  
 ンカ其ノ要領ヲ述

0 2359 691

40

館長符號電信

REEL No. A-0291

753

1532

亞米利加製

次官

76543  
36501  
36504  
(總 36505)

電信課長(總)

昭和十六年十一月廿七日前後

十月廿七日前後本省著

(機)

極秘 館長符號

野村大使

東郷 外務大臣

第一一九一號

廿六日ハルル考方ハホニ依リ本使東郷大使ト共ニ會  
 見シタル先方ハ先ツ別電ヲ一八九二號及  
 一八九三號及一八九四號ノ文書ヲ示

館長符號電信

0 2358 690

39

アジア歴史資料センター

935

1532

九月廿五日日本東京トノ野田調和ヲ云々セシ  
 居ルモ本東京ハ右何レノ東京トモ著シク異リホル  
 此ヨリ指摘セルニ對シハルハ右ハ右方指摘ノハ  
 ラカラフレノ直前ノ「パラグラフ」ト併読アリタク  
 考方トシテハ前記日本東京調和ノ一事ナリ  
 ト述レ何カ今迄開始以來其ノ内容ヲ秘シ  
 来ルル民論ヲモテス一キ考子ニ於テ秘ルノ

館長符號電信

0.2361 693

42

956

1532

憶測ヲ生シ殊ニ支那ヲ見殺ニスルカハキ浮説  
 モ頻ニ傳ヘラレ自カモモ惑シホル一方日本例ハ  
 廿三日今迄降申上ケオキタル次オモ拘ラス各要  
 人ハ相委ラス非平和的談論ヲモ調セラシホル  
 關係モ右之自カトシテハ諸般ノ事情トモ  
 提示ノモテ博サニ至レル次オナリトホナリ

館長符號電信

0.2360 692

41

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター



158

1532

一、能ヲ指摘せんニ對シテハ右ノ如キハ十分理解  
 可ナリ原則ハ原則トシテ必スモ急ニ速實現  
 ヲ豫想シタルニアラスト~~然~~一タリ  
 四、同提議ヲセラシヨシカニノ(二)ニ関シ其ノ  
 趣旨ハ右ニ角トシ日本カ華存命ノ所以来  
 此ノ種集團的機構ニ付テハ頗ル昔<sup>ニ</sup>キ経験ヲ  
 有コオリ本客力カ九子<sup>ニ</sup>的機構ヲ復讐セ

館長符號記

0 2363 695

44

157

1532

三、先方提議<sup>ニ</sup>セクシヨシ<sup>ニ</sup>付テハ先方四存<sup>カ</sup>  
 中一カ四カ<sup>ニ</sup>従来ノ所謂<sup>ハ</sup>システム<sup>ニ</sup>ト<sup>ラ</sup>ト<sup>リ</sup>シ  
 ト<sup>テ</sup>改化セルヲ指摘せんニ對シテ別段<sup>ニ</sup>答  
 ナラ<sup>ズ</sup>先方<sup>ノ</sup>待遇<sup>ニ</sup>對シテハ従来<sup>ノ</sup>我  
 方主張<sup>ヲ</sup>レ<sup>マ</sup>イ<sup>ト</sup>ス<sup>ル</sup>ト共ニ例<sup>ハ</sup>右<sup>ノ</sup>原則  
 ヲ直ニ支那<sup>ニ</sup>適用シ現在<sup>ノ</sup>経済<sup>ノ</sup>運<sup>ニ</sup>急  
 急<sup>ニ</sup>激<sup>シ</sup>タル<sup>ニ</sup>並<sup>ニ</sup>軍<sup>ヲ</sup>加<sup>フル</sup>ノ<sup>不</sup>合理<sup>不</sup>

館長符號記

0 2362 694

43

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター



760

1532

五、庚ニ同セケレヨシ(三)及(四)ニ至リテハ全ク出  
 来ナイ相決ミシテ(四)ノ重慶政府改承恩ノ如キ  
 米子カ恰モ支那即蔣政権ヲ見殺シニスルヲ得  
 スト稱セラントカ如ク我カトシテハ断ニ南カ政府ヲ  
 見殺シニスルヲ得ストキツパリキヒカリタルニ對シハル  
 ハ(三)ノ撤兵ハ要スルニ至ルニ依ル次第ニシテ仗ス  
 コモ即時實現ヲ主張シオル次第ニアラスナキ

0 2365 697

46

759

1532

ニシテ到着容認シ得サル所以ヲ強調セル  
 ニ對シテハ何ホカアル反駁ヲ有ラス  
 次事實カ全ク益ニ期スルヲハナル迄  
 ニトスルモノナルニ於テハ我カトシテハ四年間ノ全

0 2364 696

45

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター

762

1532

対してハ既ニトキ方ヲシテを慶ニ謝派セシト  
 祚モラルニ等シク苟モ希子大統領カ邊般  
 々<sup>カ</sup>シテセシタルハマサカニ右ノ如キ趣  
 タル方ニハアラサシトホ<sup>カ</sup>ニシテハルハ別  
 侵答ラル所ナシ  
 夫ニ角軍ニ一統シタルニシテモ甚カク承服シ難キ  
 提提<sup>カ</sup>ニテ<sup>カ</sup>ニ文即向款ニ肉シ絶<sup>カ</sup>ヲ受<sup>カ</sup>

0 2367 699

48

761

1532

政府ニ由リテハ米子ノ存スル情報ニ依レハ到在  
 支那ヲ統治スルノ能カナト見ルノ外ナシトホ  
 ヲ以テ右ハ過去ニ於テ支那ニ我々ノ政府ヲ興スル  
 ル経緯ヲ弁説セシタル<sup>カ</sup>論<sup>カ</sup>トを<sup>カ</sup>シオキナリ  
 六、三子<sup>カ</sup>等<sup>カ</sup>ノ向<sup>カ</sup>ニ至<sup>カ</sup>リテハ米子ノ日本<sup>カ</sup>  
 テ<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>得<sup>カ</sup>ル<sup>カ</sup>限<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>履<sup>カ</sup>歩<sup>カ</sup>ヲ<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>サ<sup>カ</sup>セ<sup>カ</sup>ト<sup>カ</sup>シ  
 支<sup>カ</sup>野<sup>カ</sup>セ<sup>カ</sup>シ<sup>カ</sup>ン<sup>カ</sup>アル<sup>カ</sup>一方<sup>カ</sup>ハ<sup>カ</sup>述<sup>カ</sup>ノ<sup>カ</sup>地<sup>カ</sup>キ<sup>カ</sup>支<sup>カ</sup>那<sup>カ</sup>向<sup>カ</sup>款<sup>カ</sup>ニ  
 前長符號電信

0 2366 699

47

764

1532

考、度ノ餘地ナントセシムル事ナリヤ及邊大  
 統領カ友人ヨリハ「日取佐ノ言ニテト稱セラレ  
 タル経緯ニモ鑑シテ人言見方ヲ取筆計ツシ  
 博一キヤト質シタルニ對シテ所者ニ對シテハ右ハ  
 ルニ業ナリト終ハ餘者ニ對シテハ余リ進マザル  
 様子ナリシモ取汁ヒ方承諾セリ」(了)

館長符號電信

0 2369 \* 701

50

763

1532

不可解ナル事項ヲ含ミタルニ鑑ミテ、但シセテ  
 帝子政府ニ傳達スルハ誠意具白米而子ノ安  
 結ヲ念、缺トスル本使ホトシテ採ル(キ措置ナ  
 リヤ不レヤニモ採ルキ疑向アリ、何レ西人ニ托テ更  
 ニ勉強、就一決ノ上決定スルヲ一致ガシト述ニオ  
 キタリ

ハ、最後ニ本使ヨリ米子トシテハ本意ナリ外

館長符號電信

0 2368 \* 700

49

1532

次官 大臣

亞米利加局長

1532-0

765

36496  
36503  
(總 36508)

電信課長

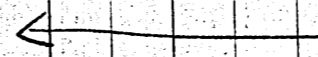
昭和十六年十月廿七日 午前發  
十月廿七日 午後本省著

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村大使

第一九二號



館長符號電信

0 2370 702

51

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター

1532

767

It is believed that in our discussions some progress has been made in reference to the general principles which constitute the basis of a peaceful settlement covering the entire Pacific area. Recently the Japanese Ambassador has stated that the Japanese Government is desirous of continuing the conversations directed toward a comprehensive and peaceful settlement in the Pacific area; that it would be helpful toward creating an atmosphere favorable to the successful outcome of the conversations if a temporary modus vivendi would be agreed upon to be in effect while the conversations looking to a peaceful settlement in the Pacific were continuing.

On November 20 the Japanese Ambassador communicated to the Secretary of State proposals in regard to temporary measures to be taken respectively by the Government of Japan and by the Government of the United States, which measures are understood to have been designed to accomplish the purposes above indicated.

The Government of the United States most earnestly desires to contribute to the promotion and maintenance of peace and stability in the Pacific area, and to afford every opportunity for the continuance of discussions with the Japanese Government directed toward working out abroad-gauge program of peace throughout the Pacific area. The proposals which were presented by the Japanese Ambassador on November 20 contain some features which, in the opinion of this Government, conflict with the fundamental principles which form a part of the general

settlement

O 2372 " 704

53

- 2 -

1532

768

settlement under consideration and to which each Government has declared that it is committed. The Government of the United States believes that the adoption of such proposals would not be likely to contribute to the ultimate objectives of ensuring peace under law, order and justice in the Pacific area, and it suggests that further effort be made to resolve our divergences of views in regard to the practical application of the fundamental principles already mentioned.

With this object in view the Government of the United States offers for the consideration of the Japanese Government a plan of a broad but simple settlement covering the entire Pacific area as one practical exemplification of a program which this Government envisages as something to be worked out during our further conversations.

The plan therein suggested represents an effort to bridge the gap between our draft of June 21, 1941 and the Japanese draft of September 25 by making anew approach to the essential problems underlying a comprehensive Pacific settlement. This plan contains provisions dealing with the practical application of the fundamental principles which we have agreed in our conversations constitute the only sound basis for worth while international relations. We hope that in this way progress toward reaching a meeting of minds between our two Governments may be expedited.

O 2373 " 705

54



ORIGINAL

11  
126

Oral

1532

Strictly Confidential

November 26, 1941.

The representatives of the Government of the United States and of the Government of Japan have been carrying on during the past several months informal and exploratory conversations for the purpose of arriving at a settlement if possible of questions relating to the entire Pacific area based upon the principles of peace, law and order and fair dealing among nations. These principles include the principle of inviolability of territorial integrity and sovereignty of each and all nations; the principle of non-interference in the internal affairs of other countries; the principle of equality, including equality of commercial opportunity and treatment; and the principle of reliance upon international cooperation and conciliation for the prevention and pacific settlement of controversies and for improvement of international conditions by peaceful methods and processes.

U 2371 703

52 54

REEL No. A-0291





ORIGINAL

1532

770

外務省

Strictly Confidential, tentative and without commitment

November 26, 1941.

Outline of proposed basis for agreement between the United States and Japan.

Section 1

Draft mutual declaration of policy

The Government of the United States and the Government of Japan both being solicitous for the peace of the Pacific affirm that their national policies are directed toward lasting and extensive peace throughout the Pacific area, that they have no territorial design in that area, that they have no intention of threatening other countries or of using military force aggressively against any neighboring nation, and that, accordingly, in their national policies they will actively support and give practical application to the following fundamental principles upon which their relations with each other and with all other governments are based:

- (1) The principle of inviolability of territorial integrity and sovereignty of each and all nations.
- (2) The principle of non-interference in the internal affairs of other countries.
- (3) The principle of equality, including equality of commercial opportunity and treatment.

(4)

0 2375 707

5657

1532

771

- (4) The principle of reliance upon international cooperation and conciliation for the prevention and pacific settlement of controversies and for improvement of international conditions by peaceful methods and processes.

The Government of Japan and the Government of the United States have agreed that toward eliminating chronic political instability, preventing recurrent economic collapse, and providing a basis for peace, they will actively support and practically apply the following principles in their economic relations with each other and with other nations and peoples:

- (1) The principle of non-discrimination in international commercial relations.
- (2) The principle of international economic cooperation and abolition of extreme nationalism as expressed in excessive trade restrictions.
- (3) The principle of non-discriminatory access by all nations to raw material supplies.
- (4) The principle of full protection of the interests of consuming countries and populations as regards the operation of international commodity agreements.
- (5) The principle of establishment of such institutions and arrangements of international finance as may lend aid to the essential enterprises and the continuous development of all countries and may permit payments through processes of trade consonant with the welfare of all countries.

0 2376 708

5758

1532

大臣  
次官

亞米利加局長

36509  
36516  
36502  
(總 36500)

電信課長

昭和十二年十一月廿七日

十一月廿七日

日午後本省著

華存發

(機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村大使

第一一九四號

館長符號電信

0.2377 709

58

REEL No. A-0291

アジア歴史資料センター

air and police forces from China and from Indo-China.

4. The Government of the United States and the Government of Japan will not support-militarily, politically, economically - any Government or regime in China other than the national Government of the Republic of China with capital temporarily at Chungking.

5. Both Governments will give up all extraterritorial rights in China, including rights and interests in and with regard to international settlements and concessions, and rights under the Boxer Protocol of 1901.

Both Governments will endeavor to obtain the agreement of the British and other Governments to give up extraterritorial rights in China, including rights in international settlements and in concessions and under the Boxer Protocol of 1901.

6. The Government of the United States and the Government of Japan will enter into negotiations for the conclusion between the United States and Japan of a trade agreement, based upon reciprocal most favored-nation treatment and reduction of trade barriers by both countries, including an undertaking by the United States to bind raw silk on the free list.

7. The Government of the United States and the Government of Japan will, respectively, remove the freezing restrictions on Japanese funds in the United States and on American funds in Japan.

B.

0 2379 711

60 59

8. Both Governments will agree upon a plan for the stabilization of the dollar-yen rate, with the allocation of funds adequate for this purpose, half to be supplied by Japan and half by the United States.

9. Both Governments will agree that no agreement which either has concluded with any third powers shall be interpreted by it in such a way as to conflict with the fundamental purpose of this agreement, the establishment and preservation of peace throughout the Pacific area.

10. Both Governments will use their influence to cause other Governments to adhere to and to give practical application to the basic political and economic principles set forth in this agreement.

0 2380

712

6159 52

(ORIGINAL)

1532 773

Section 2

Steps to be taken by the Government of the United States and  
by the Government of Japan

The Government of the United States and the Government of Japan  
propose to take steps as follows:

1. The Government of the United States and the Government  
of Japan will endeavor to conclude a multilateral non-aggression  
pact among the British Empire, China, Japan, the Netherlands,  
the Soviet Union, Thailand and the United States.
2. Both Governments will endeavor to conclude among the  
American, British, Chinese, Japanese, the Netherland and Thai  
Governments an agreement whereunder each of the Governments  
would pledge itself to respect the territorial integrity of  
French Indochina and, in the event that there should develop  
a threat to the territorial integrity of Indochina, to enter  
into immediate consultation with a view to taking such measures  
as may be deemed necessary and advisable to meet the threat  
in question.

Such agreement would provide also that each of the Govern-  
ments party to the agreement would not seek or accept preferen-  
tial treatment in its trade or economic relations with Indo-  
china and would use its influence to obtain for each of the  
signatories equality of treatment in trade and commerce with  
French Indo-China.

3. The Government of Japan will withdraw all military, naval,  
air

0 2378

710

595



777

亞米利加局長

次官

大臣

1532

(總 36619)

電信課長

昭和十六年十一月二十七日午後 省府發

十一月二十八日午後 本省著

(噴機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村 大使

第一二〇四號

省愛第 八四二號、第一

未倒、於テハ豫テコリノ主張ニ至、我方

ノ要求、依リテ係子先ノ案トシテ協議中

館長符號電信

0 2382 714

63

776

亞米利加局長

次官

大臣

1532

(總 36567)

電信課長

昭和十六年十一月二十七日午後 省府發

十一月二十八日午後 本省著

(噴機)

極秘 館長符號

東郷 外務大臣

野村 大使

第一一九六號

二十七日午後五時半 本使 末栖 大使ト

共ニ大統領、公然會見ノ豫定 (了)

館長符號電信

0 2381 713

62 64